

平成30年8月29日

報道関係者各位

国立大学法人 筑波大学

飲み放題は大学生の飲酒行動にどう影響するか
～飲み放題に関する議論の必要性～

研究成果のポイント

1. 飲み放題でない場合に比べ、飲み放題では、飲酒量が男子学生で1.8倍、女子学生で1.7倍増加することがわかりました。
2. 男子学生の39.8%、女子学生の30.3%は飲み放題の場合のみHED(一時的多量飲酒)^{※1}という危険な飲酒をしていることがわかりました。
3. 95.8%の大学生が、飲み放題を利用した経験があることがわかりました。
4. 大学生のアルコール対策については、飲み放題が自分たちの飲酒量に与える影響を理解するとともに、サービスを提供する側もそのあり方についても議論する必要があると考えられました。

国立大学法人筑波大学医学医療系 吉本尚准教授、川井田恭子(大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻 博士課程2年)らの研究グループは、関東の31大学35学部の学生533人を対象に、飲食店における飲み放題に関する横断的調査を行いました。その結果、95.8%の大学生が飲み放題を利用したことがあり、飲み放題ではない場合に比べて、飲み放題での飲酒量が、男子学生で1.8倍、女子学生で1.7倍増加することを明らかにしました。

若者のアルコール過剰摂取は、国内のみならず世界的な問題です。わが国では多くの飲食店において飲み放題というサービスが提供されていますが、このサービスが大学生の飲酒量に与える影響に関する調査は、これまでほとんど行われてきていませんでした。

本研究グループでは、日本の大学生533人のうち、飲み放題を利用したことがあると回答した学生511名(95.8%)を分析対象として、飲み放題の利用と大学生の飲酒量の差異を調べました。飲酒量は、飲み放題ではない場合に比べて、飲み放題では、男子学生1.8倍(48.2±29.5g に対する85.9±49.7g)、女子学生1.7倍(36.5±26.7g に対する63.7±39.3g)に増加していることがわかりました。また、男子学生の39.8%、女子学生の30.3%が、飲み放題の場合にのみ、HED(一時的多量飲酒)という危険な飲酒をしていることがわかりました。

大学生に対しては、飲み放題では飲酒量が2倍近く増えていることを理解するとともに、飲み放題を提供する側も、そのあり方について議論していく必要があると考えられました。

本研究成果は、2018年8月29日付で、「The Tohoku Journal of Experimental Medicine」のオンライン版で公開される予定です。

研究の背景

アルコール過剰摂取は世界的な問題とされており、世界保健機構(WHO)は2009年に、「flat rate for unlimited drinking(一定料金での無制限飲酒)」のサービスが過剰摂取を招くとして、サービス提供の禁止・制限を提言しました(参考文献1)。イギリスでは実際に、飲み放題サービスの提供に罰則が設けられました。日本でも2013年に「アルコール健康障害対策基本法」(参考文献2)が策定され、国の方針である「アルコール健康障害対策推進基本計画」が2016年に策定されていますが、24時間アルコール飲料の購入が可能であったり、多くの飲食店において飲み放題サービスが提供されるなど、未だにアルコールに対して寛容な環境があります。

大学生を含めた10~20代の若年者におけるアルコール過剰摂取を原因とする死亡は世界で年間33万人に達しています。将来の我が国を担う大学生によるアルコール過剰摂取への対策は非常に切実な問題です。しかし、アルコール過剰摂取につながる可能性の高い飲み放題が大学生の飲酒に与える影響に関する調査は、これまでほとんど行われてきていませんでした。そこで、飲み放題と大学生の飲酒量との関連を調べました。

研究内容と成果

本研究は、関東にある31大学35学部の学生を対象に横断研究を行いました。法的に飲酒可能な20歳以上の大学生、大学院生を対象とし、594人の学生から回答を得ました。質問に適切に回答した533人のうち飲み放題を利用した経験がある学生511名(95.8%)を分析対象としました。「飲み放題を利用したことがありますか?」という質問を行い、「ある」と回答した学生には、飲み放題利用時の飲酒量と非利用時の飲酒量について具体的な数字を記入してもらいました。その他、飲酒頻度、1回飲酒量などを聴取しました。飲み放題と飲み放題でない場合の飲酒量の差異を明らかにするための統計解析を行いました。

その結果、飲み放題ではない場合の飲酒量にくらべて、飲み放題では、男子学生では1.8倍(48.2 ± 29.5 g に対して 85.9 ± 49.7 g)、女子学生では1.7倍(36.5 ± 26.7 g に対して 63.7 ± 39.3 g)に増加していることがわかりました。また、男子学生の39.8%、女子学生の30.3%は、飲み放題の場合のみ、HED(一時的多量飲酒)という危険な飲酒をしていることがわかりました。

これらの結果から、1)飲み放題では、大学生の飲酒量が増大していること、2)男子学生の4割、女子学生の3割が飲み放題利用時のみHEDという危険な飲酒をしていること、3)調査対象にしたほとんどの大学生が飲み放題を利用したことがあることが示されました。海外の研究でも、“all-you-can-drink”(飲み放題)が短時間での多量飲酒(ビンジ飲酒)²のリスクを2.44倍高めたり(参考文献3)、アルコール血中濃度と強く関連していること(参考文献4)が明らかにされています。特に、日本人の4~5割はアルコールが飲めない、あるいはとても弱い体質であることが明らかにされています。これらの学生が飲み放題の利用時に、通常より2倍近いアルコールを摂取している可能性があることは、きわめて危険であると考えられます。

今後の展開

本研究で得られた結果を一般化するために、全国の大学生における同様の横断研究、飲み放題ではなぜ飲酒量が増えるのかという要因に関する質的・量的調査を、今後展開していく必要があると考えられます。将来わが国を担う大学生が、アルコールに関する正しい知識を持ち、アルコールと上手に付き合いながら社会で活躍するための礎を築く必要があります。そのためにも大学生に対して、飲み放題の利用が自分たちの飲酒量に与える影響を知り、サービスを提供する側もそのあり方について議論していく必要があると考えます。

参考図

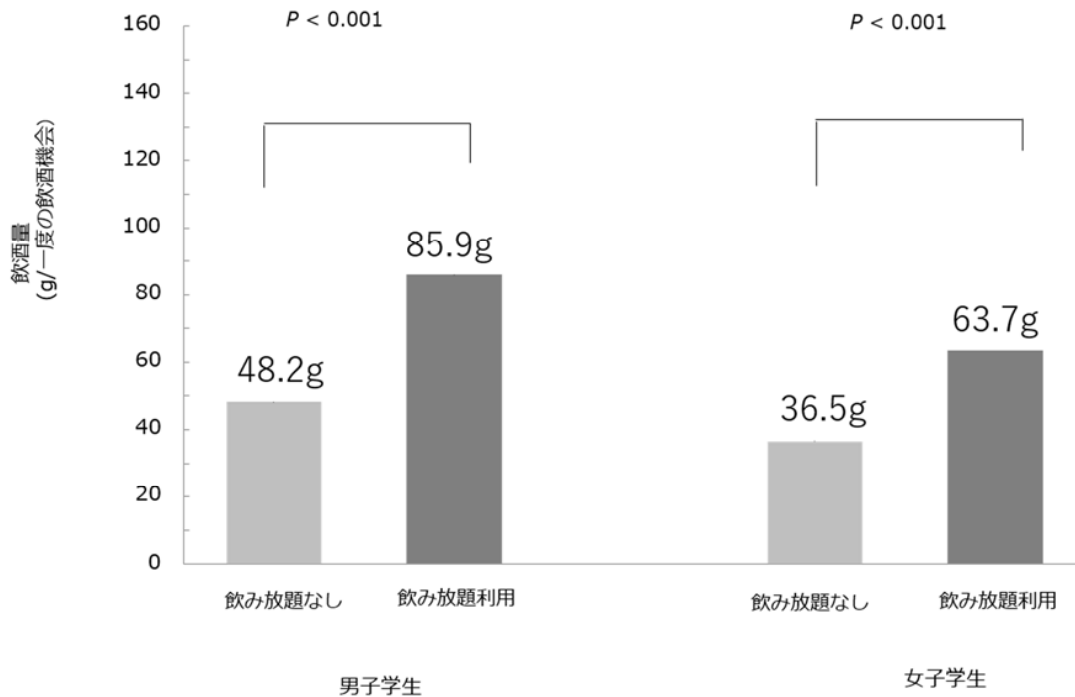


図 男女別に見た飲み放題利用時と非利用時の飲酒量の平均比較。飲み放題でない場合に比べて、飲み放題では、飲酒量が男子学生で約 1.8 倍、女子学生では約 1.7 倍増加していることを示しています。

用語解説

注1) HED(Heavy Episodic Drinking:一時的多量飲酒)

WHO の定義により、HED とは、性別を問わず一回の飲酒機会に純アルコール 60g 以上摂取した場合をいいます。純アルコール 20g の目安は、ビール(アルコール度数 5%)500ml、日本酒(15%)1 合 180ml、ウイスキー(43%)ダブル 1 杯 60ml、ワイン(12%)小グラス 2 杯 200ml、チューハイ(7%)350ml 缶、焼酎(25%)小コップ半分 100ml です。

注2) ビンジ飲酒

男性で純アルコール 50g 以上、女性で純アルコール 40g 以上摂取するような飲酒行動をいい、HED と同様アルコール血中濃度が上昇することにより急性アルコール中毒や転倒などの外傷のリスクが高まる危険な飲酒行動です。

参考文献

1. World Health Organization. (2010) Global strategy to reduce the harmful use of alcohol. World Health Organization, Geneva, Switzerland.
http://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/44395/9789241599931_eng.pdf
2. アルコール健康障害対策基本法 <http://www8.cao.go.jp/alcohol/pdf/kihonhou/hou.pdf>
3. Thombs, D.L., Mara, R., Dodd, V.J., Hou, W., Merves, M.L., Weiler, R.M., Pokorny, S.B., Goldberger, B.A., Reingle, J. & Werch, C.C. (2009) A Field Study of Bar-Sponsored Drink Specials and Their Associations with Patron Intoxication. Journal of Studies on Alcohol and Drugs. March, 206-214.

4. Carlini, C., Andreoni, S., Martins, S.S., Benjamin, M., Sanudo A. & Sanchez Z.M. (2014) Environmental characteristics associated with alcohol taxation among patrons in Brazilian nightclubs. *Drug and Alcohol*, 33, 358–366.

掲載論文

- 【題名】 The use of All-You-Can-Drink System, *Nomihodai*, Is associated with the increased alcohol consumption among college students: A cross-sectional study in Japan
(大学生の飲み放題の利用は飲酒量増加と関連する～日本の大学生を対象にした横断研究)
- 【著者名】 Kyoko Kawaida, Hisashi Yoshimoto, Ryohei Goto, Go Saito, Yasukazu Ogai, Nobuaki Morita, Tamaki Saito
- 【掲載誌】 The Tohoku Journal of Experimental Medicine
doi.org/10.1620/tjem.245.263

問い合わせ先

吉本 尚(よしもと ひさし)
筑波大学医学医療系 地域総合診療医学 准教授
〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1

川井田 恭子(かわいだ きょうこ)
筑波大学大学院 人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻 博士課程 2 年